

原子力科学技術・応用・技術協力閣僚会議における 宮路外務副大臣演説

最初に、閣僚会議の開催を歓迎するとともに、共同議長に心からの感謝の意を表したいと思います。

日本がコスタリカとともに共同議長を務めた2018年の前回会議以来、原子力科学技術に対する関心や需要が世界的に高まっており、この閣僚会議は非常にタイムリーなものです。

日本は、SDGsの達成を含む地球規模の課題の解決に貢献する原子力科学技術を重視しており、核兵器不拡散条約(NPT)において期待されているとおり、この点に関する国際協力を強化してきました。

共同議長、

日本は、原子力科学技術及び応用の促進におけるIAEAの顕著な役割を高く評価しています。日本は、加盟国の開発課題に効果的かつ総合的に取り組むことを目的とした「Rays of Hope (レイズ・オブ・ホープ)」や「Atoms4Food (アトムズ・フォー・フード)」といったIAEAのイニシアティブを常に強力に支援してきました。

ポジティブな社会的・経済的影響をもたらすべく、日本はIAEAの技術協力基金への主要拠出国であり続けています。

また、日本は平和的利用イニシアティブを通じて、これまでに、6800万ユーロ以上の特別拠出を行い、前述のイニシアティブを含むIAEAの活動をさらに支援しています。

サイバースドルフの原子力応用研究所は、応用研究開発等の実施において重要な役割を担っています。日本は、同研究所の近代化に向けた「ReNuAL（リニューアル）」イニシアティブを協力を支援しており、これまでに総額約760万ユーロの任意拠出を行いました。

日本は、明日午前、サイバースドルフの線量測定研究所が放射線治療の質を確保する上で果たしている役割と、日本による同研究所への貢献を紹介するサイドイベントを開催する予定です。このサイドイベントへの皆様のご出席を心より歓迎いたします。

日本は、官民の組織や個々の専門家がIAEAと協力してきた歴史があります。最近の進展として、

- 今年、がん医療の強化を目的として、日本の「Rays of Hope アンカーセンター」が指定されたこと
- 昨年、非破壊検査の分野において、IAEAと日本非破壊検査協会との間で実務取り決めへの署名が行われたことを歓迎します。

我々は、原子力科学技術の分野でより多くの女性が活躍で

きるよう、引き続き取り組んでいく必要があります。この目的のために、日本はマリー・スクウォドフスカ・キュリー奨学金プログラムに約150万ユーロを拠出しました。さらに、来年、日本がリーゼ・マイトナー・プログラムをホストする意向であることを、ここでお知らせできることを嬉しく思います。

また、日本は、RCAの枠組みの下で、特にがん医療分野において、積極的にアジア太平洋地域の加盟国と関与していることを強調したいと思います。また、日本は、今年で25周年を迎えるアジア原子力協力フォーラム（FNCA）の下での協力も主導しています。日本は、引き続き、これらの協力枠組みを主導し、地域における原子力科学技術の平和利用を促進していきます。

共同議長、

最後になりますが、今回の閣僚会議が、原子力科学技術の平和的利用の促進にさらなる弾みをつけることを期待しています。

ありがとうございました。

(了)